



佐藤 信次 議員

多文化共生社会実現に向けてすべきことは

問 ポール・ブリュナの生誕の地である、ブル・ド・ペーリジュ市（フランス）との文化・人的交流が続いているが、今後について聞きたい。また、物産等の物流面は不可能か。

答 交流を継続し、より関係性を深めていきたい。物産面については相手方の意向もあるが、可能性について検討していきたい。

問 国内の就労人口の減少に伴い、海外から多くの技能実習生が訪れ、その数は、2018年度には20万人を超えている。こうした状況を本市ではどの様に捉えているか。

答 本市においても、有能な特定技能者、研究職の外国人を採用する企業が増えていくと考えている。企業と働く外国人双方にとって、良い職場環境になるよう支援策を研究していきたい。

意見 多文化共生社会実現のため①交流成果の検証②日本語教室の充実③生活支援の充実④地域での交流促進が必要である。

災害復旧のスピードアップと

避難所の見直しを急げ

問 災害復旧の進捗状況が市民に伝わっていない。

答 今まで以上にホームページで情報の公開を行っていききたい。また、具体的な進捗状況や開通時期なども掲載し周知の充実を図っていききたい。

問 急傾斜地（傾斜度30度以上）は市内に何箇所あるのか。

答 203箇所ある。

要望 急傾斜地は土砂災害の危険性が最も高い場所であるため、全箇所の調査をお願いする。

問 「土のうがあれば、浸水が防げた」との声を聞く。地域に事前配布してはどうか。

答 今後、浸水対策のため、土のう袋の要望調査を実施したい。

要望 災害時に、避難所の一部には、耐震性、移動面で相応しくない場所がある。災害弱者の立場に立って、見直しと充実を図っていただきたい。



三ツ木 真由美 議員

子どもの遊び場整備に市民の声を届け、実現に向けて！

とみおか未来会議及びその提案書の活用について問う。今年テーマは「子どもの遊び場整備」で、4回開催された結果がまとめられ提案書が作成された。

とみおか未来会議及びその提案書の活用について問う。今年テーマは「子どもの遊び場整備」で、4回開催された結果がまとめられ提案書が作成された。

問 未来会議の提案書が具体的にどのように生かされるのか。

答 無作為抽出で選ばれた市民がメンバーとなり、その参加者から「行政任せではなく、自分ごと」に気づき、市民間の繋がりもできた、「こんな私でも市政に『意見』ができると感じた」等、ご意見をいただいた。その多様な力を市政に生かすための、最良な手段として、令和2年度も開催予定である。

問 いつごろまでに、実現させる予定なのか。

答 令和2年度の予算案では、「北部運動公園東ゾーン再整備検討業務」や「水遊びイベント」の開催経費などを計上している。

問 北部運動公園東ゾーン再整備はどのように進めていくのか。

答 6月頃に設計業者に委託し、場所や設置遊具等の検討を行い、年度末までには設計を完成。3年度に着工したい。

問 ひかり公園のトイレ整備は。多目的トイレにユニバーサル

子どもの遊び場整備基本計画 策定に向けた提案書

とみおか未来会議 令和2年1月

提案書は市ホームページでご覧いただけます